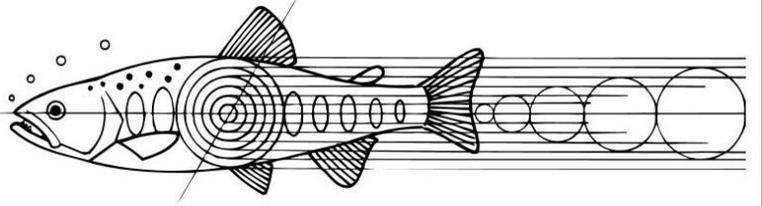


news

長良川市民学習会ニュース



2/17 名古屋市政クラブにて記者会見



2023年(令和5年)2月14日(火曜日)

導水路 名古屋市容認へ

徳山ダムの水、木曾川に

木曾川水系連絡導水路事業 揖斐川と木曾川を全長43kmの地下トンネルで結び、徳山ダムの水を愛知県や名古屋市の取水施設がある木曾川に流す事業。都市用水への利用や洪水時の木曾川、長良川の環境改善を目的で上流・下流の2ルートを建設する。当初計画では、総事業費890億円のうち、国が408億円を支出し、愛知県が318億円、名古屋が121億円、岐阜県が30億円、三重県が13億円を負担する予定だったが、未着工のまま止まっている。



市は導水路がなければ活用できない徳山ダムの建設費と管理費の負担を続けており、建設は避けられないと判断した。当初計画で総事業費が八百九十億円になる導水路は、揖斐川に取水口があり名古屋市の愛知県など、濁水対策が目的だった。〇〇九年度に着工、二〇〇九年度に計画が完成する計画だが、河村市長が初当選の〇九年五月、「水余りの明。水余りを根拠に導水路事業の撤退を表明したが、十四年近くが経過してしまっ「徳山ダムを造ってしまっ」の市の水の需要予測は「汚濁の改善」の試算で、市は試算で、

飲用、治水で新用途

濁水対策のために徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を、木曾川水系連絡導水路事業を巡り、「水余り」を理由に、明していた名古屋市の河村たかし市長は、「転じて計画良質な飲用水の確保や治水対策など新たな用途で導水路する。今回の方針転換を受け、建設に向けた協議が加速する。

撤退から14年方針転換

号外

2023年3月2日



2/17 名古屋市長室秘書課にて「抗議文」提出

徳山ダムと... 1957年12月 建設省(現国土交通省)がダム... 76年9月

「号外」発行にあたって

2月14日（火）河村名古屋市長は突然前触れもなく「導水路容認」の表明をしました。

私たちは、当会ニュースでその都度「徳山ダム導水路」めぐる動きをお知らせしてきました。検証の場である関係自治体検討会は「令和4年度以降も新たな段階に入らずに環境調査を継続しつつ、引き続きダム事業の検証に係る検討を進めるものとする」としていただけない、名古屋市長のこの突然の表明は意外でした。

本ニュース号外は、この突然の「導水路容認」表明に対して行った私たちの行動と今後の取り組みについて緊急にお知らせするものです。大急ぎで発行しましたので、誤植、乱丁などご容赦願います。

徳山ダム導水路問題にかかわる長良川市民学習会、「導水路はいらない！愛知の会」、「徳山ダム建設中止を求める会」の3団体は、16日に抗議文「河村市長の『方針転換』という愚に抗議する」を発表し、翌17日午前名古屋市政記者クラブにおいて記者会見、市長室に抗議文を届けました。同日、午後には名古屋市議会各議員団室を訪問し抗議文（P2）を手渡しました。

これらの様子は、この地方のほぼ全ての新聞社とテレビ3局が報道しました。

E(令和5年)2月18日(土)

毎 日 新



抗議文の提出について記者会見する愛知、岐阜の市民団体代表ら一名古屋市役所で

徳山ダム導水路建設事業 名古屋市長に抗議文

3市民団体

徳山ダムの水を損傷しないのは、導水路撤退川から木曾川に流す導水路の建設を巡り、計画を認める意向を示した河村たかし名古屋市長に対し、愛知と岐阜の市民団体が17日、市長が今しなければいけない2009年度着工、導水路事業は費用を国と愛知、岐阜、三重3県、名古屋市長が負担

15年度完成の予定だったが、河村市長が初当選後の09年5月に撤退を表明。その後、当時の民主党政権が事業を凍結していた。

抗議文を提出したの「導水路はいらない！愛知の会」など3団体。河村市長が新たに示した流域治水や堀川の再生などの水の用途を「苦し紛れの単なる思いつき」と断じた。記者会見で「徳山ダム建設中止を求める会」の近藤ゆり子事務局長は「09年から本質的には何も変わっていないのに、方針転換とは何なのか」と憤った。一方、報道陣の取材に心じた河村市長は「推進、反対の人、半分くらいずつ話し合

いをしてい」と半月中場を設けていた。【田中理知】

2月28日、私たちの抗議文に対し、河村市長は「見解」（P3-4）を示しました。また同日、市長は私たちへの「見解」と同趣旨の文書を「提案書」と題して、国交省中部地方整備局長に提出しました。

3団体は、「凍結」の中で忘れられようとしていた導水路問題を「おさらい」とともに市長の「方針転換」に抗議する報告・討論集会を、3月18日午後1時30分より名古屋市東別院会館において開催することを決めました。

多くの市民のご参加で、「導水路事業中止」の声を広げましょう（P7）。

無駄に無駄を重ねて川を殺す「徳山ダム導水路」

—河村市長の『方針転換』という愚に抗議する—

2月14日の河村たかし・名古屋市長の突然の「導水路事業容認への方針転換」に市民は驚いている。2009年5月、市長に就任したばかりの河村氏は、「撤退表明」をして、世間の耳目を集め、支持率も上昇した。徳山ダム導水路(木曾川水系連絡導水路)は、2009年から「凍結」となっており、2010年からの「ダム等再検証」で国が関与する事業としては唯一残っている。国は「再検証」を終えたいだろうし、起業者・水資源機構としては大型建設事業を早く本体着工にもっていききたいだろう。2009年の河村市長の「撤退表明」が、導水路事業を進めない重しになってきたことは確かである。

だがそれ以上に、徳山ダム導水路は、そもそも不要だから進まなかったのだ。名古屋市水道の需要は1970年代のピークから3分の2にまで減っており、1995年に運用を開始した長良川河口堰の水を使う予定も全くない。「都心回帰」で給水人口が増えても、節水と地下水利用のために水の需要は減り続けている。

徳山ダムの新規開発水は一滴も使われていない。「水余り」は長良川河口堰ですでに証明されていた。全村移転という重い事実があっても、徳山ダムは建設するべきでなかった。「導水路はいらない愛知の会」が愛知県に「導水路事業はやめるように」と要請に行ったときの愛知県の担当者の答えは「徳山ダムができちゃったから(導水路を造るしかない)」であった。

要らないものを造ってしまった失敗を、失敗としてきちんと認め、過ちを繰り返さない。「損切り」を断行するしかないのだ。それができなければ、いつまでも高度成長期の政策にしがみつき、無駄に無駄を重ねて、社会全体を疲弊させることにしかならない。最近の建設費増額の動向から事業費が1000億円をはるかに超えることは明白である。次世代に大きな負担をかぶせることは許されない。

今回の河村市長の「新しい用途」なるものも、苦し紛れの単なる思いつきとしか考えられない。

「①安心安全なおいしい水」…名古屋市水道局の水が「日本一うみやあ」というのが河村市長のかねてからの自慢だったはずである。導水路からの水がそれに勝るといふ話は理解できない。「②流域の治水」…洪水対策で上流ダムが事前放流した後、もし雨が降らないで「ダムが空になったら!」という筋書きによるものだが、国交省のダム管理能力を信用しない見過ごせない発想だ。また名古屋市には十分な自流水利権があり、平成6年の大渇水で水源開発ダムが空になっても断水はなかった。水道需要は当時より大幅に減っている。奇妙なリスク論で市民を惑わすべきではない。「③堀川の再生」…この話は2009年にもあったが、貴重な水資源の利用として本筋のテーマにされるべきではない。

河村市長が言う「苦渋の決断」も、つまるところ、14年前の愛知県職員の「(ダムが)できちゃったから」という発言に追随したものに過ぎないとしか言ようがない。さすれば、2009年の「撤退表明」は人気取りの思いつき、口から出任せであったということか。

計画によれば名古屋市工業用水の水源取水の目的で徳山ダム導水路を通った水が、途中一部が長良川に放流される。「鵜飼場」直上流で放流されることに、岐阜市民は川の環境悪化と世界農業遺産「清流長良川の鮎」が蔑ろにされることに大きな不安と反対の声を上げている。名古屋市工業用水のために長良川を殺すのは許されない。

河村・名古屋市長が今しなければならぬことは「導水路撤退の行政手続き」である。

導水路建設容認という「方針転換」の愚に強く抗議する。

2023年2月16日

導水路はいらない!愛知の会
長良川市民学習会
徳山ダム建設中止を求める会

令和5年2月28日

長良川市民学習会 御中

名古屋市長 河村 たかし

本市は、水需要予測に基づき徳山ダム建設事業に参画したが、ご指摘いただいた通り、昭和47年度に行った昭和60年度時点の水需要予測224万 m^3 /日、平成16年度に行った平成27年度時点の水需要予測124万 m^3 /日に対して、平成27年度の実績は87万 m^3 /日など、結果として水需要予測と実績に大きな乖離が生じている。

一方、本市としては、渇水時にも安定した給水サービスを継続できるよう、長期的な視点から水源の多系統化を進めており、平成6年のような深刻な渇水においても、市民生活や都市活動に大きな影響が生じないように、これまでに確保した水源を有効に活用していく必要がある。

こうした中、昨今においては、令和4年5月の明治用水頭首工における漏水や令和4年9月の静岡市における取水口閉塞に伴う大規模断水など、水供給に影響を及ぼす事象が発生している。

また、近年では線状降水帯などによる豪雨により、全国の至る所で水災害が発生している。本市が位置する濃尾平野には木曾川、長良川、揖斐川及び庄内川などが流れ、日本最大の海拔ゼロメートル地帯でもある。大河川である木曾川流域が想定最大規模の降雨に見舞われた際には、本市の中川区及び港区を含む東海三県の広範囲に浸水被害が生じることが想定され、多くの方の生命・財産・暮らしに被害をもたらすとともに、日本経済に大きな打撃となりうる。

さらに、本市の土台を築き上げた庄内川水系堀川の水質は、市民のご協力や庄内川からの導水、河川整備によるヘドロの浚渫などにより一定の改善は図っているが、中部圏を代表する国際都市名古屋にある川として、より一層の水質改善に努める必要がある。

これらの諸課題に対して適切に対応していくため、木曾川水系連絡導水路について考え方を転換し、当初目的である量的確保に加え、次の通り「新用途」とともに事業名を変更されることを提案する。また、今後は、市民の皆さまの意見を聞く機会をつくり、関係機関との調整に活用していく。

(1) 安心・安全でおいしい水道水の安定供給

本市の水源に揖斐川を追加することで平常時における水道水の質的確保を図るとともに、新用途の導水からの直接取水などによりリスクへの対応力を向上

(2) 流域治水の推進

大雨の予測時に木曾川ダム群において積極的な事前放流を行い、水災害を防ぐとともに、その後の河川の流況を確保するため新用途の導水を活用

(3) 堀川の再生

新用途の導水を活用した堀川への恒久的な導水



(資料) 徳山ダム導水路と名古屋市

長良川河口堰・徳山ダム・木曽川水系連絡導水路

- 1968(昭43)年 木曽川水系水資源開発基本計画(フルプラン)
 - 1973(昭48)年 フルプラン全部変更(FPⅡ)
 - 1988(昭63)年 長良川河口堰本体工事着工
 - 1995(平7)年7月 河口堰運用開始
 - 12月 徳山ダム建設事業審議会設置
 - 1997(平9)年12月 名古屋市3m³/秒撤退(FPⅢ) 河川法改正
 - 2000(平12)年5月 徳山ダム本体着工 08年5月試験放流完了
 - 2004(平16)年5月 徳山ダム新規水利権6.6m³/秒に(FPIV)
 - 2007(平19)年8月 木曽川水系連絡導水路上流分割案の合意
 - 12月 長良川市民学習会発足
 - 2009(平21)年3月 「導水路はいらない!愛知の会」発足
 - 5月 名古屋市長「導水路撤退」声明
 - 10月 前原国交大臣「導水路凍結」表明
 - 2011(平23)年2月 大村・河村、共同マニフェスト掲げて当選
- * 共同マニフェスト: 導水路見直し、河口堰の開門調査

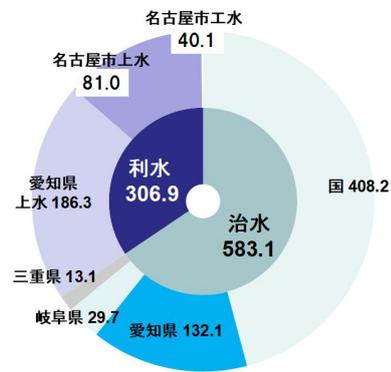
名古屋市は、高度成長期「木曽川水系水資源開発計画」(フルプラン) にそって水資源開発事業に参画してきました。

しかし、長良川河口堰にも徳山ダムにも一滴の水を使うことなく、使うあてもなく、お金をつぎ込んできました。

名古屋市長はこの無駄を悔み、損を挽回しようと導水路事業に突入しようとしています。さらなる財政投資は「さらなる泥沼」に入り自滅するだけです。



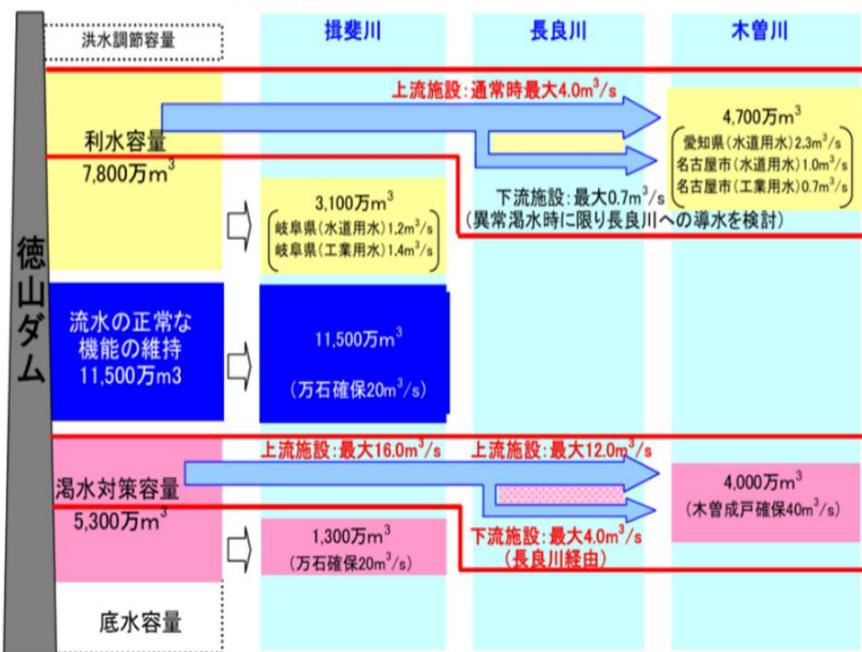
木曽川水系連絡導水路事業 総額 890億円



木曽川水系連絡導水路計画

工期 2015年度(H27)
事業費 890億円

名古屋市の建設費負担は、210.6 億円。しかしこれは、15 年前の話。どれだけ膨らむかわかりません。いま建設中の設楽ダムは、すでに当初の 2.2 倍に！内ヶ谷ダムは 2.8 倍に増額されています。



左の赤線の枠が「導水路」に流れる水です。長良川には経営も事業内容もあやしい名古屋市工業用水目的の水が流されます。

導水路に流される濁水対策容量の水は飲料水用ではありません。

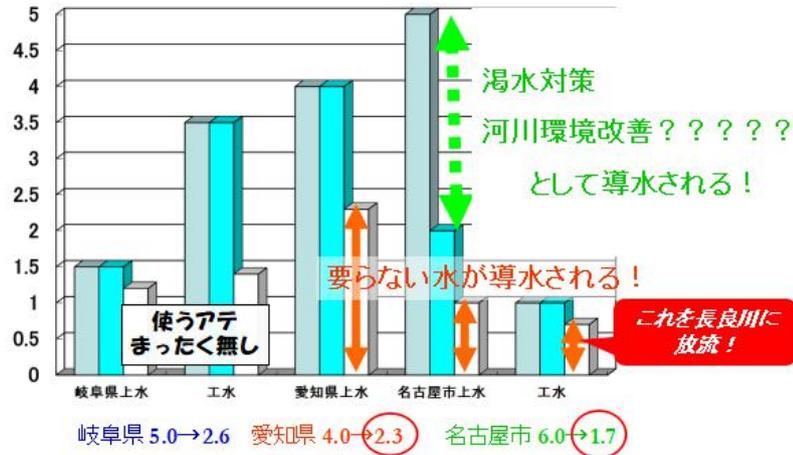
異常濁水時に、木曽川ではヤマトシジミが、長良川では、アユが生き残れるようにするため！！！！？？？？

シジミやアユは料金が払えないから、私たちが税金で払います。

第1回木曽川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場(幹事会) 2010年12月22日説明資料より

徳山ダムの水は要りません！

新規利水 15.0(1973)→12.0(1997)→6.6(2004) m³/秒
m³/秒



名古屋市がダム建設費を水資源機構に23年ローンまたは、建設年度に支払うお金です。やっと河口堰分のローンは終わりました。徳山ダム分は令和12年まで続きます。市民の水道料金にはこれらが50年から55年のちまで被せられます。

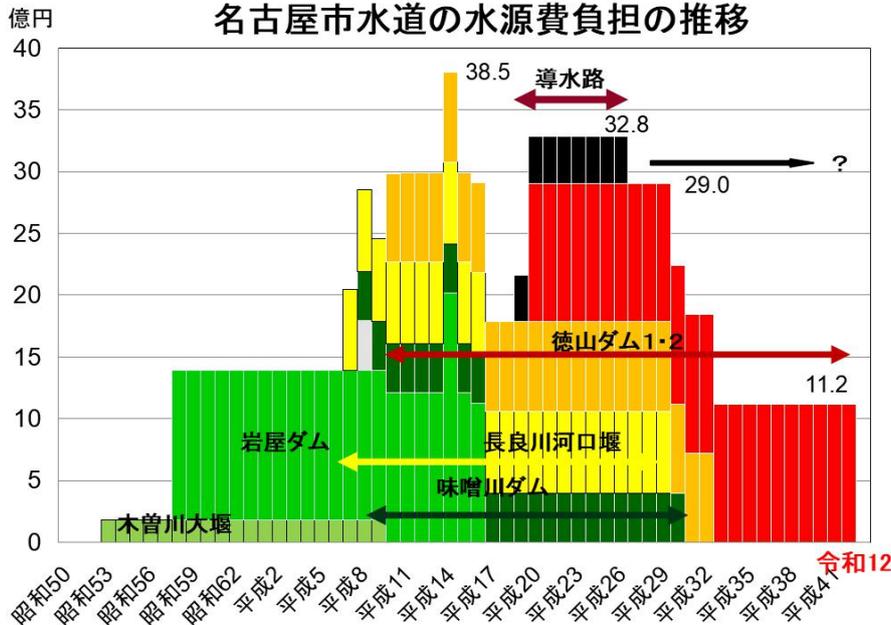
さらに、使わなくても参画してしまった各ダムには毎年の維持管理費負担の請求が来ます(永遠に)。名古屋市は徳山ダム分だけでも毎年約2億円支出しています。

それでも、名古屋市は新たに導水路建設に参加して、お金をつぎ込もうとするのでしょうか？

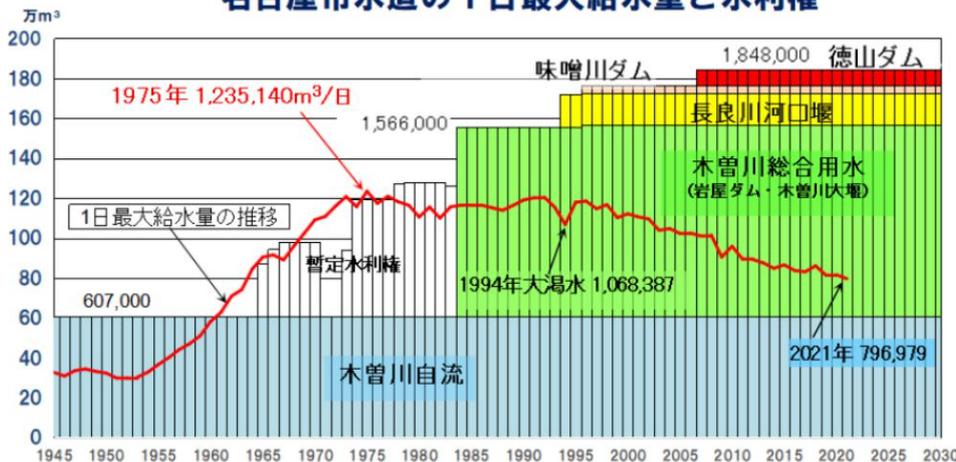
1日最大給水量は1975年の124万m³をピークに一貫して減少。2021年にはついに80万m³を割りました。現保有水利権は185万m³。名古屋への導水施設がない長良川河口堰、徳山ダム分を除いても160万m³。平成6年の大渇水レベルにも十分に耐えられます。給水量の減少は、料金収入の減少です。

とても心配な状況です。こんな厳しいときに、何で新たな水源施設の建設投資なのでしょう？

名古屋市水道の水源費負担の推移



名古屋市水道の1日最大給水量と水利権



NPOパネル展に出展しました。
2月17日(金)～25日(土)
ぎふメディアコスモスにて

ご参加ください！



無駄に無駄を重ねて川を殺す！
徳山ダム導水路

河村市長の『方針転換』という愚に抗議する
3.18報告・討論集会

2月14日の河村たかし・名古屋市長の突然の「導水路事業容認への方針転換」に市民は驚いている。今回の「方針転換」の理由とする河村市長の「新しい用途」なるものも、苦し紛れの単なる思いつきとしか考えられない。
河村・名古屋市長が今しなければならぬことは「導水路撤道の行政手続き」である。
導水路建設容認という「方針転換」の愚に強く抗議する。

- **そもそも「徳山ダム導水路」って？**
—「導水路」問題の203から1—
報告 武藤仁(長良川市民学習会事務局長)
- **河村市長の「方針転換」という愚に抗議する！**
—いま名古屋市長がしなければならぬこと—
報告 近藤ゆり子(徳山ダム建設中止を求める会事務局長)
- **討論/在問正史**(導水路要知住民訴訟弁護団長) 粕谷志郎(長良川市民学習会代表・岐阜大学名誉教授)
コーディネーター: 小林収(導水路はいらない!愛知の会共同代表)
参加者・市民の皆さんと質疑討論

日時: 3月18日(土) pm 1:30~4:00
会場: 東別院会館2階(蓮・橋) 名古屋市中区橋2丁目8-45
(地下鉄「東別院」駅から徒歩2分)

主催 導水路はいらない!愛知の会/長良川市民学習会/徳山ダム建設中止を求める会
(連絡先) 090-3445-5913 加藤伸久 090-1284-1298 武藤仁

- 3月11日(土) さよなら原発ぎふパレード 10:30集会(清水緑地公園:JR岐阜駅南側) 11:00市中パレード
- 3月18日(土) 河村市長「導水路容認」抗議/報告・討論集会 1:30~名古屋東別院会館2階
- 7月6日(木)~7月9日(日) パネル展「よみがえれ長良川 2023」 ぎふメディアコスモス ギャラリーにて

発行：長良川市民学習会 <http://dousui.org/>

代表: 粕谷志郎
連絡先: 武藤 仁 / 090-1284-1298
〒500-8211 岐阜市日野東 7-11-1
mutohitoshi@yahoo.co.jp



私たちの活動は皆様のカンパで成り立っています。
賛同してくださる方は、ぜひカンパをお願いします。

ゆうちょ銀行口座: 00840-3-158403
口座名称: 長良川市民学習会

本ニュースのバックナンバーは <http://dousui.org/news/index.html> でご覧になれます。